

令和 6 年度
学校関係者評価報告書

令和 7 年 3 月
独立行政法人国立病院機構
都城医療センター附属看護学校

平成 19 年 10 月学校教育法施行規則改正により「自己評価」の義務化と「学校関係者評価」の努力義務化が規定された。

令和元年度より自己評価結果の客観性と透明性を高め、本校と密接に関係する方々との理解促進や協力連携による学校運営の改善を図ることを目的に学校関係者評価を実施しており、令和 6 年度の実施報告をする。

1. 学校関係者評価委員会

1) 学校関係者評価委員

小川淳子（学校法人日南学園日南看護専門学校校長）
中山秋子（一般社団法人藤元メディカルシステム藤元病院看護部長）
中尾泰子（同窓会白埴会）
宮元恭子（同窓会白埴会）
工藤智子（在校生保護者） 欠席

2) 事務局

吉住秀之（都城医療センター附属看護学校学校長）
石原史絵（都城医療センター附属看護学校教育主事）
一柳明日香（都城医療センター附属看護学校実習調整教員）
草原麻紀（都城医療センター附属看護学校学科調整教員）

2. 評価対象期間

自：令和 6 年 4 月 1 日

至：令和 7 年 3 月 31 日

3. 実施方法及び公表

学校で取り組んだ自己評価を「自己評価結果」として冊子にまとめ、学校関係者評価委員に事務局より配布・説明を行った。学校関係者評価委員会にて、評価基準に基づき評価項目ごとに評価を実施した。その結果を報告書としてまとめ、学校ホームページにて公表する。

4. 評価項目及び評価基準

1) 評価項目

- (1) 重点目標
- (2) 教育理念
- (3) 学校運営
- (4) 教育活動
- (5) 学修成果

- (6)学生支援
- (7)教育環境
- (8)生徒の受入れ募集
- (9)法令等の遵守
- (10)社会貢献・地域貢献

2)評価基準

- ・適切(実施)
- ・ほぼ適切(概ね実施)
- ・普通(問題や課題があるが一通り実施)
- ・やや不適切(少し実施)
- ・不適切(実施していない)

5.評価結果

項目 1 重点目標

評価 適切

- ・3年生の学習支援成果の評価尺度は模擬試験結果等の学年全体と個人のデータを比較分析し、課題を明確にして対策していることが評価できる。
- ・就職について学校の方針をNHOと地域に貢献する看護師の育成を担う学校であることを掲げており、学生だけでなく保護者へも説明し理解を促している。NHOへの就職率は高く、評価できる。今後、宮崎県内のNHOへの就職者増加を目標とする。
- ・学生の自己のキャリア形成について考えられるよう講義に「キャリアマネジメント」の内容を教授する等、学生の頃から自己のキャリアについて考える機会を作っていることは評価できる。

項目 2 教育理念

評価 適切

- ・学生による学校評価の「教育方針」は1年次から高い平均点であり、学生が理念を理解していることがわかる。日々の場面や実習等で理念に立ち返り意図的に教育に当たっていることがわかる。
- ・PR動画作成に学生が参加している。学生の言葉でPRすることで、学生だけでなくPRを視聴する方々も広く理念の理解につながっているのではないかな。

項目 3 学校運営

評価 適切

- ・学校活動や学習成果をデータ化することで推移を客観的に評価し、迅速に対応できる。例えば看護技術到達等について本校では学生自身がデータ化し共有している。ICT活用により効果的な教育に繋がっているのではないかな。
- ・データ収集方法については目的に応じて収集媒体を使い分けており、適切なデータ量が

収集できるよう工夫している。

項目 4 教育活動

評価 適切

- ・学生の授業過程評価が全体的に高い。特に学生の興味関心が高い科目は授業過程評価も高く、講師選定が教育に反映されることがわかる。
- ・学生のレディネスは講師会議や講義来校時に説明をしている。講師会議資料は参加されない講師にも希望されれば配布しており、学生の状況を講師と共有できるよう務めている。来年度は、講師資料を講師室で自由に閲覧できるようにしようと考えている。
- ・来年度、特別講義「メンタルヘルス」を1年次から計画する。その理由として、専門課程に入ると戸惑う学生が多い。1年次は自分の物事の認知傾向が分かるようになることをねらう。

項目 5 学修成果

評価 適切

- ・今年度退学者は2年生2名であった。2名の入学年度は異なる。一度休学を選択し、復学した後に退学的意思決定をした。
- ・助産師を目指す学生は毎年2名程度である。助産学校は入学が困難となっており最終的に意思決定し、進学していく学生は絞られていく。

項目 6 学生支援

評価 適切

- ・教員配置は各学年3人体制で対応している。3年生はチューター制で1教員につき15名程度担当し学習支援、進路支援をしている。
- ・グループカウンセリングを取り入れことで、スクールカウンセリングが学生に周知できてきた。性格診断をして不安になって利用した学生がいた。カウンセリングを知る機会を作ったことで利用しやすいカウンセリングになってきたことは評価できる。
学生対応について教員がカウンセラーに相談することもでき学生支援に活かされている。

項目 7 教育環境

評価 適切

- ・教材教具については不具合があれば迅速に修理し、必要時購入している。実習では今年度からすべての実習を臨地で行っており学生の教育環境が整えられている。

項目 8 生徒の受入れ募集

評価 適切

- ・オープンキャンパスでは対象範囲を中学生とした。メディカルキッズ等で中学生の受け入れを行った。保護者向けPRとして、オープンキャンパスでは保護者向け説明会を企画した。地域へのPRとして、学校祭では地域住民へ案内状を直接配布した。今年度卒業記念品とした学校理念が示された横断幕を作成してもらった。公道から見えるところに

揭示し、学校の存在をアピールすることになっている。

項目 9 法令等の遵守

評価 ほぼ適切

- ・入学者充足率が 100%を超えており、14 条報告に基づいて県から入学生数で指摘があった。行政には留年者と入学希望者が予測より多かったと説明している。県下での学生確保が喫緊の課題である。適正数の確保に向けて改善する。

項目 10 社会貢献・地域貢献

評価 適切

- ・県内看護師養成所の中で、教員の質を確保している学校であり、教員育成と実習指導者育成に貢献していることは評価できる。

6.総括

今年度は、9 項目が「適切」、1 項目が「ほぼ適切」の評価であった。今年度の学校関係者評価結果より、以下 4 点の課題が明確になった。

- ①就職に関して、県内就職率の改善に向けて進路相談、就職説明会を実施し、進路選択に関する情報を随時発信していく。
- ②講師との学生レディネスの共有促進するために、講師室に講師会議資料を置く等、講師が学生の状況把握が容易になるよう工夫する。
- ③スクールカウンセリングの効果的な利用ができるよう、グループカウンセリングの継続、学生への個別的な促しを行い学生の状況に合わせた支援を図る。
- ④入学者充足率 100%となるよう学生の適正数確保をする。

令和6年度 自己評価結果

